

ほっと川柳

「 中小も 企業価値の 向上を 」

2023年3月23日に株式会社日本政策金融公庫が公表したニュースリリースは衝撃的だった。

「中小企業のうち後継者が決定している企業は 10.5%、
廃業を予定している企業は 57.4%」

中小企業の多くの企業が廃業して行けば、日本経済の致命的な価値喪失になる。

「過去の延長上に未来がない」ということを経営者は深く認識する必要がある。

また、会計事務所の多くは税務のみでPDCAの経営指導のサービスをやろうとしないと言われている。

中小企業の経営者を本気にするスイッチは何処なのだろうか？

グローバルに経済が動き、オープンAI等の新しい技術により、
多くの仕事がなくなっていく時代に、身内に事業を継承させる道を選ぶことは極めて困難だと思う。

企業の価値と社員の雇用を維持する現実的な方法は「友好的なM&A」
しかないを考える。

以下、中小企業の経営者の目線で考察したいと思う。

M&A においての問題を考えてみよう。

【問題点1】

中小企業は「いかに税金を納めないか」の観点から経営しているケースが多い。

その結果、貸借対照表の純資産が異常に低くなっている。

後継者がいないので M&A をしようとする、「純資産=企業価値」として非常に低い価額で譲渡されるケースも少なくない。
そこで廃業を選択するケースが多いと考える。

(例 1)

純資産=2,000 万円 株式取得価額=1,000 万円
株式譲渡益に対する税金 (所得税・住民税)
= (2,000 万円 - 1,000 万円) × 26% = 260 万円

手元に残るお金 = 2,000 万円 - 260 万円 = 1,740 万円・・・①

(例 2)

本当の企業価値が 5,000 万円である場合

株式譲渡益に対する税金 (所得税・住民税)
= (5,000 万円 - 1,000 万円) × 26% = 1,040 万円
手元に残るお金 = 5,000 万円 - 1,040 万円 = 3,960 万円・・・②

正しい企業価値で計算された場合は②3,960 万円 - ①1,740 万円 = 2,220 万円のお金が増えることになる。

従って、社長は会社の企業価値を常に正しく認識しなければならない。

【企業価値とは何か?】(用語解説)

企業価値とは、将来フリー・キャッシュフロー (以下「FCF」) の割引現在価値になる。

企業価値 = 1 年目: 将来 FCF ÷ (1 + 割引率) + 2 年目: 将来 FCF ÷ (1 + 割引率) の 2 乗 + 3 年目: 将来 FCF ÷ (1 + 割引率) の 3 乗・・・

割引率のことを資本コストという。

将来 FCF を最大化し、将来 FCF 計画の信頼性を高めて資本コストを下げることにより、企業価値は向上する。

【将来フリー・キャッシュフロー (FCF) とは何か?】 (用語解説)

平たい言葉で言うと、財務活動（借入金等の増減）を除く将来のネット入金額の現在価値をいう。

例えば、金利が5%で、今105万円入金になる場合のお金の価値は105万円になる。

これが1年後の入金になる場合は「 $105 \text{万円} \div (1+0.05 (5\%)) = 100 \text{万円}$ 」になる。この様に時間経過によるお金の価値の減少を織り込んだ、財務活動を除く将来のネット入金合計額を言う。

【問題点 2】

会計事務所の話を経合すると、オーナー企業が事業承継すると、7割の企業が傾くと言われている。

M&Aをする場合、オーナーが退職する場合の経営リスクを織り込んで、企業価値をディスカウントする。

株式譲渡価額が下がり、オーナーの手取りのお金が大きく減る。

これを防ぐためには、オーナーが辞めてもお金を生み出し続ける仕組みを10年かけて作り上げることである。

具体的に全社員がお金を増やすように行動する仕組み、キャッシュ・フロー予算制度である。

これを構築出来る人は実績の会計を理解している会計人しかいない。

会計人は次のステップを踏んで行くべきと考える。

第一ステップ

実績会計学を学び、実績会計実務を習得する。

第二ステップ

予算会計学（キャッシュ・フロー予算制度構築）を学び、予算会計実務を習得する。

皆さんはどう考えますか？